

地元産食材をセットでお届けする
「長島大陸食べる通信」

長島町の魅力はなんと言っても「食」。本当に美味しいものだらけで、食料自給率は100パーセントを超えているんです。「長島大陸食べる通信」は、生産者の生の声と一緒に長島町の旬の食材をお届けする情報誌。生産のドラマや地元ならではの調理法を知って作る料理は、ひと味違わずです。たくさんのお申し込みお待ちしております。



甲斐 友也さん

鹿児島市で食堂を開いていた経験が強みの一つ。写真は、食べる通信のライターに地域を案内した際の姿。



「かごしまブランド」に認定されている赤土バレイショ



食べる通信は3か月に1度発行され、料金は送料込みで毎号3,780円。HPなどから申し込むことができます。



濃厚な味わいのデコポン

生産者と料理人の架け橋「シェフツアー」



ツアーで料理人が畑を視察する様子

都市部の一流料理人や仕入れ担当者を長島町に招き、生産者と交流する「シェフツアー」を企画しています。食材の新規直売売り上げが1,000万円を超えたほか、料理人の情報発信力などを通じて長島町を世の中に広める効果が生まれたり、生産者と料理人が主体的に関係を築くきっかけになったりしています。



太田 良冠さん

前職で高級レストランの課題改善のために約800店を訪問。その繋がりを生かし、積極的に活動中。

地域の特性を生かし、長島町を舞台にした映画制作



進む映画制作の様子

地域活性化の取り組みを継続するため、現役の協力隊有志7名で「長島未来企画合同会社」を起業しました。現在、長島町を舞台とした映画を制作中。全国有数の出生率を誇る長島町の子育て環境をテーマに、2019年秋公開予定です。映画を通じて多くの方に長島町を知っていただきたいです。



土井 隆さん

長島町の地方創生統括監。インターネット会社と連携した魅力発信に次々と取り組む。



長崎鼻灯台公園

一面のじゃがいも畑を抜けると広々とした海が現れる。夕暮れ時には黄金色に染まる美しい空と灯台のシルエットが心を癒やしてくれる。



長島町は鹿児島最北端に位置し、東シナ海、八代海、長島海峡などの海に囲まれ、北部一帯は雲仙天草国立公園に含まれるなど自然豊かな地域です。大小27の島々で構成され、本島は黒之瀬戸大橋で薩摩半島と結ばれています。基幹産業は農業と漁業。良質な赤土を生かしたバレイショや発祥の地といわれる温州みかん、日本の養殖出荷量を誇るブリのほか、長島限定で販売される芋焼酎など、長島の風土を感じられる食材が溢れています。今回は、この長島町を盛り上げている地域おこし協力隊の皆さんの活動についてお伺いしました。

【問い合わせ先】 県庁地域政策課 Tel.099-286-2424

鹿児島県 地域おこし協力隊 検索

地域のみなさまの夢 私たちも一緒に追い求めます。




そうしん

鹿児島相互信用金庫

本部/住所 〒890-0062 鹿児島市与次郎1丁目6番30号 TEL 099-259-5222 <https://www.kasosin.com/>



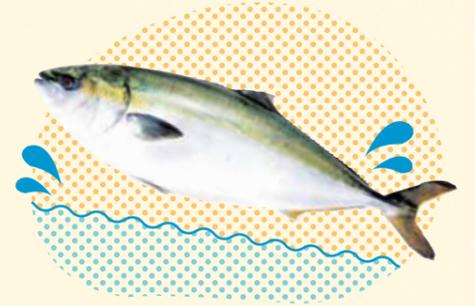
御八日踊り

8月8日は長島全体が祭り一色に染まり、島内の神社で伝統芸能が披露される。



針尾公園

展望台から北を望めば雲仙天草国立公園が視界いっぱいに広がる。



長島が誇るブランド「鱒王」

高度な品質管理のもと育てられたブリは、米国を中心に海外にも輸出されている。